

人も皆、この鈴のようなものを、心の中に授かっているのではないだろうか。

その鈴は、整えられた平らな道を歩いていたのでは鳴ることがなく、人生のでこぼこ道にさしかかった時、揺れて鳴る鈴である。

星野富弘 『鈴の鳴る道』より

星野さんは、二十四年前手足の自由を失い、以来口に筆をくわえ、文字や花の絵を描き、沢山の詩集を出版され、現在もご活躍です。

電動車椅子での移動にでこぼこ道はお手上げなのだそうです。ある人から小さな鈴をもらい、車椅子にぶら下げて、振って音を出すことが出来ないで、美しい銀色の鈴を見ているだけでいいと思いました。

ある時でこぼこの上にのったら、「チリーン」といい音が鳴りました。気持ち气和みました。

あなたも生きていく中で様々な困難にであうことでしょう。つまりでこぼこ道です。その時あなたの鈴はどんな音が鳴るでしょう。でこぼこを迂回せずに進んでこそ鈴の音がきこえる！と思います。

由仁町 本覚寺 高橋芳子

